

の人数を増やした。今まで1子ずつ別に記入していた育児記録を3人同時に書き込める用紙を作成し、3子の育児を行っている時でも1人1人の個性に気付く事が出来るようになっていった。

#### V. 考 察

1. 育児意欲を高め、各児に愛情を平等に注ぐにはまず母親の疲労軽減が必要である。
2. 看護師は母親の疲労度を考えながら育児をすすめていき、いつでも休んでよい事、困った時には力

になるという安心感を与えていく事が必要である。

3. 3子同時に行う、効率性を重視する育児は、時に母親に罪悪感を抱かせる可能性があるため、思いを傾聴し、母親の希望をケアに反映していく事が必要である。
4. 3つ子であっても一人一人と向き合う時間が必要であり、3人同時にお世話する時も、一人一人の個性を大切にしていると感じられるような工夫が必要である。

## 救命救急センター病棟のキャリアスタッフ教育プログラムの改善

救命救急センター病棟 漆 畑 真 織 長 島 美 香  
村 松 美 代 子 太 田 亜 希 子  
横 野 靖 代 牧 野 仁 美

#### I. はじめに

当病棟は一般病棟で数年の勤務経験をしたナースが異動対象となっており、私達スタッフ教育係は経験を考慮のうえ交替時から1年間でCCU看護以外の業務全般に携われるように教育プログラムを組んできた。しかし看護体制や医療内容の変化に合わせ更に効果的な教育プログラムを考えることが必須となり、これまでの教育プログラムを見直す為アンケートを実施、検討改善をしていくことができたため報告する。

#### II. 研究目的

より効果的な教育プログラムへの改善

#### III. 研究方法

当病棟に勤務する看護師29名、勤務1年以内1年以上で指導を受ける側指導をする側と分けアンケートを実施、得られた回答を研究者間で検討要約した。

#### IV. 考 察

レポートに関して、勤務交替者からは役立った、基盤となり良かった等肯定的意見が得られた。勤務交替当初は様々な環境の変化に対応していかなければならない。うまく病棟に適應し以前の看護能力を早期に取り戻す為には、必要な知識や技術の獲得が必要となる。一方、指導者は内容の見直しの必要性や実際の看護場面で生かしていく事の難しさを感じていた。そこで内容を当病棟で受け持つ事の多い疾患など現状にあったものを選択整理し、実際の看護場面での知識や思考過程が見えるように具体的な疾患と必要な知識項目を示した疾患レポートと、事例

を示しアセスメントしていく事例レポートを追加した。

技術チェックリストに関して、指導者から実践的なチェックや質問形式が良いとの意見があり、レポート同様実際の場面で活用できるようにしたいと考えていることがわかった。そこでチェックの方法を口頭のみ確認ではなく実際に行動をとる方法に変更した。

指導方法・関わり方に関して、指導者からプリセプターや教育係などの一部のスタッフが指導に関わるのではなく病棟スタッフが皆でコミュニケーションよく勤務交替者に関わり、指導をしていきたいという思いが感じられた。そこでミニ講義は指導者が誰でも講義を行える事とし、病棟全体で関わる事を意識付けるようにした。さらに教育スケジュールの予定を一覧にして提示する事にした。また、指導ポイントについては統一したものを新たに作る事とし、現在検討・作成をしている。

#### V. 結 論

- i. 課題レポート・チェックリストの内容・実施期間・確認方法を実践に沿ったものとする。
- ii. 教育スケジュールの提示とプリセプターのサポートを含めた病棟全体で関わる指導体制をとる。

#### VI. おわりに

本研究により教育プログラムの改善点を明らかにし変更することができた。今後も病棟の状況にあわせスタッフの意見やプログラムの効果を確認しながら未解決な点の検討・改善をすすめていきたい。